

73 B 27  
(12 C 15)  
(74 A 222)  
(74 A 231)

特 許 庁

実用新案出願公告

# 実用新案公報

昭31-3184

公告 昭 31.3.1 出願 昭 29.11.9 実願 昭 29-39760

出願人 考案者 梅 沢 東 吉 東京都千代田区神田松富町19

代理人 弁理士 大 賀 寛 二

(全3頁)

## プレスに於けるターンテーブルの自働廻転装置

### 図面の略解

第1図は本案を示す側面図、第2図は要部の拡大断面図、第3図及び第4図は上図A-A線下方部の作動状態を説明する平面図である。

### 実用新案の性質、作用及効果の要領

本案は機枠1上にターンテーブル2の軸3を軸支し該軸の下端に傘歯車4を下向に取付け其の上面に円盤5を取付け該円盤の周辺に一定間隔を設けて適数の切欠6を設け傘歯車4に啮合する傘歯車7を廻転軸8上に遊着し該傘歯車7は後方部を鉢状9に形成し其の内側空隙部に摺動可能に廻転軸上に楔着された頭截円錐形の廻転子10を密嵌せると共に拡張撓条11により廻転子を傘歯車7に圧着させ機枠の下面に装置した摺動抑止杆12の前端を後端に装置した拡張撓条13の作用により円盤5の周面に圧着させ同時に該抑止杆の下面に固植せる軸杆14に遊着した転子15を廻転子10の背部に突設したカム16に圧着させ傘歯車7と廻転子10との嵌合部下半は滑油函17内の油に浸漬してなるものである。

尚廻転軸8は主動廻転軸18とチェーン19により関連されクラッチ作動杆20の下端は廻転軸上のカム21に接触させ該カムの1廻転毎に昇降作動体22に1回昇降作動を行はせる様にされたものである。

本案は前記の如き構造よりなるから廻転軸8は主動廻転軸18が動力により廻転を与へられている内は常に廻転をなし従て該廻転軸上に楔着される廻転子10も廻転軸と共に廻転をなす一方廻転軸上に遊着されている傘歯車7は之と啮合せる傘歯車4が廻転自由の伏態にある時は廻転子10よりの摩擦伝動により廻転子と結合一体となりて廻転し傘歯車4に廻転を伝へ同時にターンテーブル2を廻転させる然るに傘歯車4に取付けた円盤5の切欠6に抑止杆12の先端が嵌入して円盤5の廻転を阻止すると之に関連する傘歯車4とターンテ

ブル2及び傘歯車7は廻転を停止され廻転子10は傘歯車7との嵌合部内に於て空転する此の際廻転子と之が嵌合せる傘歯車7の円側壁との間に常に滑油により浸されているため廻転子は円滑に廻転する斯くて廻転子背部に設けたカム16が抑止杆に設けた転子15を撓条13の作用に抗して移動させ円盤の切欠6に嵌入せる抑止杆の先端を切欠より離脱させ傘歯車4の廻転抑止を釈放すれば傘歯車7は直に廻転子10の伝動を受けて廻転し傘歯車4を介しターンテーブル2を廻転する茲に抑止杆12は廻転子のカム16に止り移動させられ円盤の切欠より離脱するがカム16が転子15の位置を通過すれば抑止杆の先端は撓条13の作用により円盤の周面に圧着され従て円盤が廻動し切欠が再び抑止杆の前端位置にきて抑止杆の先端に一致すれば直に抑止杆は切欠に嵌入し前述と同様に円盤の廻転を停止させ之により傘歯車4,7及びターンテーブルは停止する。この様にして廻転軸8が廻転される間ターンテーブルは一定間隔毎間歇的に廻転する依てターンテーブル上に所定間隔を設けて数個の下型を列設し之に被加工物を載置すれば昇降作動体の降下する毎に被加工物は昇降作動体に取り付けた上型により圧搾されて加工される。

本案は以上の如く簡單なる装置によりターンテーブルの間歇的廻転を確実に遂行させるものであるから軽量プレス用ターンテーブルの廻転装置として洵に有効適切なる考案である。

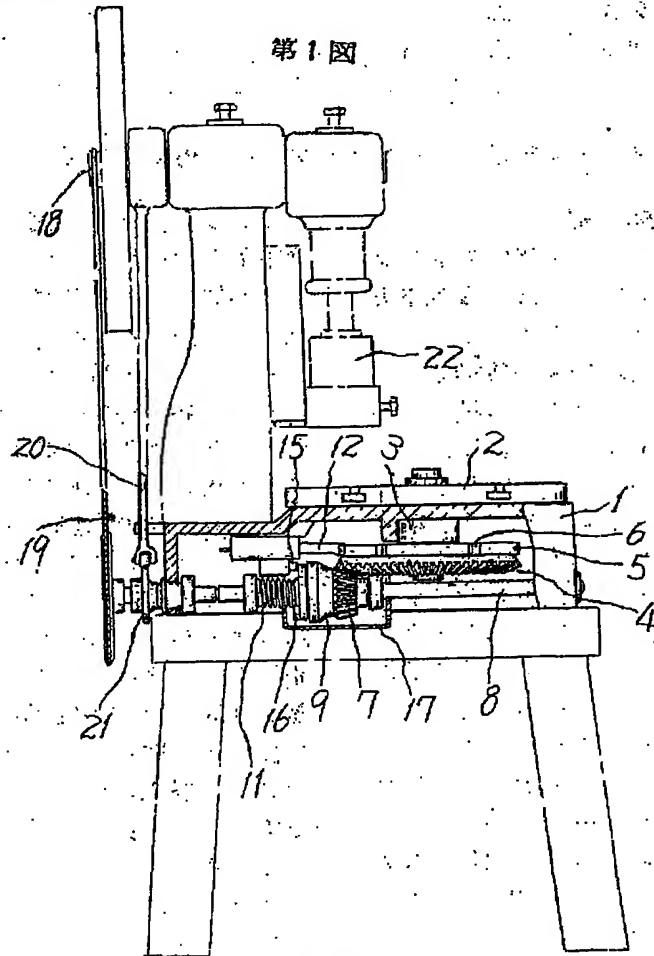
### 登録請求の範囲

図面に示す様に機枠1上にターンテーブル2の軸3を軸支し該軸の下端に傘歯車4を下向に取付け其の上面に円盤5を取付け該円盤の周辺に一定間隔を設けて適数の切欠6を設け傘歯車4に啮合する傘歯車7を廻転軸8上に遊着し該傘歯車7は後方部を鉢状9に形成し其の内側空隙部に摺動可能に廻転軸上に楔着された頭截円錐形の廻転子10を密嵌せると共に拡張撓条11により廻転子を傘

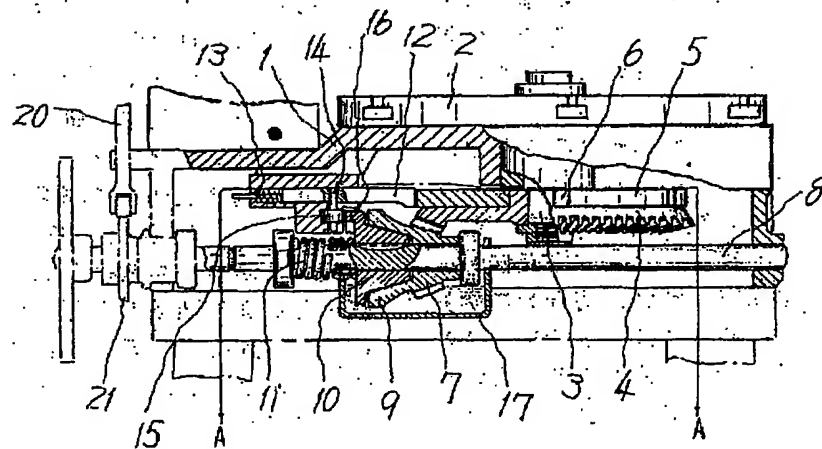
歯車7に圧着させ機枠の下面に装置した摺動抑止  
杆12の前端を後端に装置した拡張巻条13の作用に  
より円盤5の周面に圧着させ同時に該抑止杆の下

面に固植せる軸杆14に遊着した転子15を廻転子10  
の背部に突設したカム16に圧着させてなるプレス  
に於けるターンテーブルの自働廻転装置の構造。

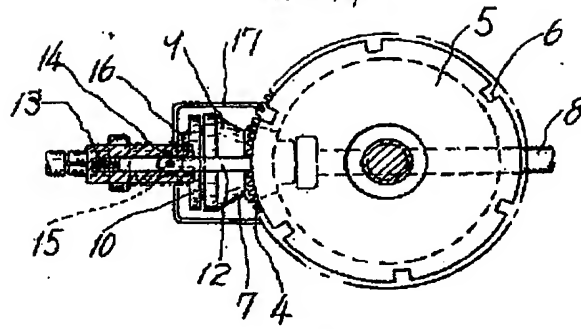
第1図



第2図



第3圖



第4圖

